

# 令和7年度事業報告

## 1 普及啓発事業

### (1) 賛助会員

がん征圧運動に協力していただく賛助会員(維持会員)の拡大に努めた。

(令和8年3月31日現在 : 個人会員 192人、法人会員 87団体)

### (2) がん征圧月間運動

日本対がん協会と日本医師会は9月を「がん征圧月間」としており、また、北海道は9・10月を「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」としている。当協会は両者と協力し、9・10月を重点的にがん征圧運動を行っている。具体的な取組としては、

ア 「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」行事として、北海道庁ロビーにおいて「がん予防普及パネル展」を開催した。

イ がん検診事業の拡大をはかるため、地域団体と協力してPRを行った。

ウ 広報資料・がん関係資料を報道関係者に積極的に提供し、新聞・テレビ・ラジオ等メディアを通じてがん征圧月間のPRを行った。

エ 北海道医師会と連携し、がん予防ポスターを道内の医療機関及び市町村へ配付した。

また、北海道、札幌市、旭川市、釧路市の協力を得て、がん検診受診促進のための懸垂幕・看板を掲示し、PRを行った。

### (3) がん予防道民大会

がんに関する正しい知識を広く道民に普及することにより、がん予防活動の実践とがん検診事業の進展を図ることを目的として、昭和40年以来、がん征圧月間の中心行事として全道で開催している。

令和7年度は北海道・千歳市・北海道健康づくり財団と共催し、多くの関係団体の協賛・後援のもと10月23日(木)に北ガス文化ホール(千歳市民文化センター)において次のとおり開催した。

会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催し、オンライン参加を含めて全道から1,354名が参加した。また、健康教育の一環として地元高校生・中学生が参加したほか、「特別講演」を道内の中学・高校などにオンデマンド配信を行った。

大会の主な行事

- がん予防功労者表彰 (北海道対がん協会長表彰)

余市町、和寒町、千歳市社会福祉協議会ピンクリボンボランティア、

- 優良がん対策推進企業表彰 (北海道知事表彰)

第一生命保険株式会社

- 特別講演

「がんの免疫予防について」～脳活・筋活・腸活のすすめ～

札幌医科大学 名誉教授 鳥越 俊彦 氏

○ 健康講話

「足し算で生きる ～がんステージ4からの生還」

フリーアナウンサー 笠井信輔氏

(4) 啓発セミナー

ア がん予防学級

一般市民を対象に、がんに関する正しい知識の普及を図るため、旭川センターで開講し、95人が受講した。

イ 北海道家族の健康をまもる講習会

北海道健康をまもる地域団体連合会、北海道結核予防会と共催で、令和7年7月11日(金)に札幌エルプラザにおいて、がん・結核等に関する講習会を開催し、全道から84名の受講者が参加した。

ウ 講習会等

地域住民や保健推進員などを対象に、7回、120名へ講演・講習会等を行った。

(5) 事業年報

事業年報については昭和45年から毎年発行しており、令和6年度実績を収録した「2024事業年報」を発行した。

(6) その他情報発信

ア 機関誌「しらかば」の発刊

北海道対がん協会の機関誌である「しらかば」を発刊した。

イ ホームページの活用

ホームページにより、随時、最新の協会の運営及び各種事業の情報並びにがんに関する正しい知識の周知・普及に努めた。

ウ メディアの活用

全道版の雑誌及び地域FMラジオなど、各種メディアを通じて、がん検診の周知・普及に努めた。

(7) 普及啓発の推進

ア 地区組織との連携

がんに関する正しい知識の普及、及びがん検診事業の拡大を図るため、各種団体・地区組織と連携を行った。

イ 企業との連携

ピンクリボン運動等、がん征圧の趣旨に賛同する企業と連携し、検診無料クーポン券プレゼント等を企画する等、がんの知識の普及と検診の拡大を図った。また、事業所等の職員向けの健康教育にも積極的に講師を派遣した。

ウ ボランティア団体への支援

がん征圧を目的とした活動に取り組んでいる市民団体を支援し、その団体の協力のもと検診の拡大を図った。

エ 健康祭り等への参加

市町村が行う健康祭り等に協力し参加者へ啓発活動を実施した。

オ パンフレット、リーフレット、ポスター等の作成

パンフレット、リーフレット、ポスター等を作成配布し、がんに関する正しい知識の普及及びがん検診事業の拡大を図った。

(8) 各種がん・生活習慣病対策会議

がん及び生活習慣病検(健)診事業を拡大し受診率の向上を図るため、次のとおり会議を開催した。

ア がん及び生活習慣病対策推進会議

次年度の事業計画を円滑に推進するため、北海道と共催で、保健所・市町村・事業所・関係者を対象に「がん及び生活習慣病対策推進会議」を次のとおり開催し、会場とオンライン参加で98団体195名の出席があった。

○ 開催日程及び場所

令和7年9月24日(水) ホテルポールスター札幌

○ 報告事項

① 北海道からの報告

・北海道におけるがんと生活習慣病の状況について

② 北海道対がん協会からの報告

・令和8年度 検(健)診の実施について

・巡回検(健)診について

・施設検(健)診について

・事業計画について

○ 講演

「大腸がんについて」

公益財団法人北海道対がん協会 札幌がん検診センター

診療部長 松本美桜

イ 日本対がん協会 東北・北海道ブロック会議

北海道・東北6支部の事業推進及び運営状況等についての情報交換を行うため、ブロック会議に参加した。

○ 開催日程及び場所

開催時期：令和7年11月13日(木)13:30～17:00

開催地：青森県

ウ 各がん検診センター所在市とのがん及び生活習慣病検(健)診打ち合わせ会議

がん及び生活習慣病検(健)診を円滑かつ効率的に実施するため、がん検診センターの所在地である札幌市、旭川市、釧路市と打ち合わせ会議を開催し、必要事項を協議した。

(9) 受診率の向上

ア 受診勧奨事業者との業務提携

① Socio Future 株式会社との業務提携

江別市内にコールセンターを設け、市町村検(健)診の予約受付業務を代行する Socio Future(株)と業務提携を行い、相互に協力して新たな市町村からの検(健)診受託及び検(健)診受診率の向上を図った。

② 株式会社キャンサーズキャンとの業務提携

市町村毎に検診未受診者の傾向等についてデータ分析し、個々に有効な文書等を発送する業務により、他都府県市町村の受診率向上対策に実績のある、(株)キャンサーズキャン(本社:東京)と業務提携を行い、受託市町村の受診率向上を図った。

イ 未受診者への検診勧奨

未受診者勧奨ハガキや電話、チラシ等を活用し未受診者への働きかけを積極的に進めた。

ウ 日曜検診の実施

3検診センターで、平日受診できない人などを対象に、がん検診と各種検(健)診を年間15日間実施し、延べ2,047人が受診した。

(10) 各センター検(健)診の充実

ア 各がん検診センター利用のPR

札幌市・旭川市・釧路市内の町内会へ積極的に検(健)診をPRし、センター利用の受診拡大を図った。

イ 健診の拡大

札幌がん検診センターでは、健康診断において特定保健指導対象者の判定を健診当日に行い、特定保健指導の対象者に対し特定保健指導を積極的に行うほか、健康診断後の要医療者及び要指導者を対象に、新たに精密検査、再検査を行った。

ウ 送迎バス利用の拡大

近隣の市町村を巡回して運行し、住民の受診機会の拡大を図った。

(11) 検(健)診設備(機器)の充実

ア 胃肺併用検診車

公益財団法人JKAの補助により胃肺併用検診車を購入し、巡回検診事業の強化を行った。

イ 乳がん検診車

北海道の補助により乳がん検診車を購入し、巡回検診事業の強化を行った。

ウ ヘリカルCT撮影装置

北海道の補助により、札幌がん検診センターにヘリカルCT撮影装置を更新した。

エ 内視鏡情報管理システム

釧路がん検診センターに内視鏡情報管理システム一式を更新した。

(12) その他

ア 北海道がん対策基金の事務局運営

当協会は事務局として基金の管理・運営を行っている。令和7年度末の寄附累計額は58,667,059円で、道内でがんに関する活動を行う13団体へ4,587,000円を助成した。

イ がん電話相談事業

がん電話相談の令和7年度の相談件数は、14件(札幌市内5件、他市町村9件)であった。これを性別で見ると、男性7人、女性7人、部位別では、肺が5件で1番多かった。

ウ 禁煙運動への参加

北海道たばこ対策連絡協議会及び北海道禁煙週間実行委員会に参加して、関連団体と禁煙運動の推進に協力したほか、WHOが提唱する世界禁煙デーを中心とする事業に参加協力した。

## 2 調査研究事業

(1) 学会研修

職員の資質の向上をはかるため、学会・研修会に参加する他、日本消化器内視鏡技師学会・北海道公衆衛生学会等、延べ5人が発表した。

(2) 「ヒト胃に感染するピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の実態調査」

杏林大学医学部を共同研究者として、ヒト胃に感染するピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の感染率、関連疾患、内視鏡像の解明を行う。

(3) 「液体生検による消化器がん検診分子マーカーの探索」

旭川医科大学を共同研究者として、液体生検による新たな消化器疾患の検診法確立と分子生物学的マーカーの消化器疾患に有用であることを証明する。

(4) 「除菌後患者における、ヘリコバクター核酸キットの臨床的有用性に関する臨床研究」

国立病院機構函館医療センターを共同研究者として、除菌治療後どの程度の期間が経過すれば核酸増幅法により除菌治療の成否を正しく判定できるかを明らかにする。

(5) 「低線量肺がんCT検診の画像から乳房内の病変を検出するソフトウェアの開発」

乳房の断面画像が取得可能である低線量肺CT検診の画像を用いて、乳房内の病変を検出するソフトウェアを開発する。

(6) 「ピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の除菌治療による病態消退効果の検証」

東海大学を共同研究者として、ピロリ菌以外のヘリコバクター属菌の除菌治療による病態消退効果及び薬剤感受性の評価を行う。

(7) 「大腸内視鏡検査前処置AI判定アプリケーションの臨床使用評価 他施設観察研究」

大腸内視鏡検査を受けるために下剤を服用する被検者の腸管洗浄度をAIアプリで判定し、本アプリケーションの精度と臨床運用での問題点を検証する。

(8) 「慢性便秘症患者に対する直腸エコー診断後のエロビキシバット投与における有効性と安全性の検討」

国立病院機構函館医療センターを共同研究者として、直腸エコー診断後のエロビキシバット投与における有効性と安全性を検討する。

- (9) 「自己免疫性胃炎の内視鏡的萎縮分類と臨床病期に関する多機関後ろ向き観察研究」  
加古川中央市民病院を共同研究者として AIG と診断された症例を集約し、その内視鏡的進行度と AIG に関連する検査所見、合併所見、内視鏡所見との関連を調査する。
- (10) 「日本人を対象とした、血液を用いる臓器横断的がん早期発見アッセイの性能評価に関する多機関共同観察研究」  
国立がん研究センター東病院を共同研究者として、日本人集団における Exact Sciences Corporation の MCED 検査の総合的な感度と特異度を評価する。
- (11) 「Helicobacter pylori 未感染胃腫瘍における Non Helicobacter pylori Helicobacter 感染症の疫学調査」  
大分大学グローバル感染症研究センターを共同研究者として、複数の H. pylori 感染診断法で陰性であることが証明された H. pylori 未感染の胃腫瘍患者・治療後患者を対象に、NHPH 感染率、NHPH の感染診断法の有用性、NHPH 感染に寄与する因子の解明を行うことを目的にする。
- (12) 「胃がん内視鏡検診での AI 併用が胃がん検出率を上昇させ、ダブルチェックの負担を軽減できるかの検証」  
宮城県対がん協会を共同研究者として、胃がん内視鏡検診に AI 併用の内視鏡診支援システムが医師によるダブルチェックの代わりになるかを明らかにする。  
この研究を行うために必要な研究費は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 革新的がん医療実用化研究事業の公的研究費で行われる。

### 3 会議開催状況

#### (1) 理事会

- |          |                    |              |
|----------|--------------------|--------------|
| 第 1 回理事会 | 令和 7 年 6 月 9 日(月)  | 参集(Web 併用)開催 |
| 第 2 回理事会 | 令和 8 年 3 月 26 日(木) | 参集(Web 併用)開催 |

#### (2) 評議員会

- |           |                    |              |
|-----------|--------------------|--------------|
| 第 1 回評議員会 | 令和 7 年 6 月 25 日(水) | 参集(Web 併用)開催 |
|-----------|--------------------|--------------|

#### (3) 四役会

- |          |                    |              |
|----------|--------------------|--------------|
| 第 1 回四役会 | 令和 7 年 5 月 30 日(金) | 参集(Web 併用)開催 |
| 第 2 回四役会 | 令和 7 年 8 月 27 日(水) | 参集(Web 併用)開催 |
| 第 3 回四役会 | 令和 7 年 12 月 8 日(月) | 参集(Web 併用)開催 |
| 第 4 回四役会 | 令和 8 年 3 月 9 日(月)  | 参集(Web 併用)開催 |